

## 第5回わかやまの棚田・段々畑サミットを開催

平成30年10月10日（水）～11日（木）の2日間、海南市において、「第5回わかやまの棚田・段々畑サミット」を開催しました。5年目となる今年は、今までのサミットを振り返り、今後の棚田・段々畑の保全の取り組みについて考える機会としました。現地見学会では「下津町方（かた）の段々畑」を散策しました。

### 1) 開催概要

「わかやまの棚田・段々畑サミット」は、平成25年に「第19回全国棚田（千枚田）サミット」が有田川町で開催されたことを契機に、地域資源である棚田等の保全活動を継続発展させていくことを目的として、平成26年から開催しています。5回目となる今年は、海南市を開催地として「地域の魅力に、気づき、学び、活かす～5回のサミットを振り返り、今後を考える～」をテーマに、シンポジウム（基調講演・パネルディスカッション）及び現地見学会を行いました。

本サミットは、「和歌山県棚田等保全連絡協議会（※1）」が主催し、当協議会では棚田・段々畑の保全活動や組織間の情報交換を支援しています。

【※1 6つの棚田保全団体、県及び県内23市町村、県土地改良事業団体連合会、県農業協同組合中央会で組織する協議会】

### 2) 10月10日（シンポジウム）

1日目のシンポジウムは海南市民会館において開催し、323名が参加しました。



多くの方にご参加いただきました



### (1)「わかやまの美しい棚田・段々畑」の認定

開会の後、“わかやまの美しい棚田・段々畑”認定証授与式を行いました。この制度は、過疎化、高齢化の進む中山間地域において、棚田・段々畑を守っている保全団体ならびに地域を認定するもので(※2 認定基準)、今年度は海南市の「下津町方(かた)の段々畑」(※3)が認定されました。

#### 【※2 わかやまの美しい棚田・段々畑の認定基準】

- (1) 地形勾配がおおむね20分の1以上の階段状の水田または畑であり、美しい景観が保全されている地区であること。
- (2) 概ね1ha以上の団地を構成していること。
- (3) 農地の維持管理が行われており、今後も継続して行われる見込みがあること。
- (4) 地域の特色を生かした共同の営農活動、他地域との交流活動、環境保全活動、その他の保全活動に取り組んでいる又は取り組む予定地区であること。



下津町方の段々畑



県認定証が方の森本さんに授与

#### 【※3 下津町方の段々畑】

方地区では、海南市の南部に位置し、江戸時代に急斜面を段々畑に開墾し、温暖な気候を活かしたみかん栽培が始まり、下津蔵出しみかんの産地として知られています。方地区地域資源保全会は、中山間地域等直接支払交付金事業及び多面的機能支払交付金事業を活用し、段々畑の石垣や農道の補修、鳥獣害対策に力を入れています。

下津町方地区の認定により、「わかやまの美しい棚田・段々畑」の認定地区数は11地区になりました。また、シンポジウム当日、認定された各地区の幟を会場内に掲げました。



認定地区の幟

## (2) 基調講演

基調講演では、NPO 法人棚田ネットワーク 代表 中島峰広 氏が「これからの棚田保全活動について」と題し、‘棚田には価値がある、棚田を活かす方法をぜひサミットを通じて感じていただきたい’と棚田が貴重な資源であることを強調しました。

次に、愛媛県で棚田の保全活動に取り組む榎谷棚田保存会代表の城本誠一 氏が講演しました。榎谷棚田の美しさやその価値について評価されたのは2012年と最近の話で、保存会を設立、水害による棚田崩壊も寄付金を集めて修復、オーナー制度を導入するなど、短期間でやってきたことを話していただきました。



基調講演者

## (3) パネルディスカッション

### 【登壇者】

コーディネーター	: 和歌山大学観光学部	教授	大浦由美 氏
パネリスト	: 沼の農業をまもる会 (有田川町沼)	会長	伊澤頼宣 氏
	棚田を守ろう会 (那智勝浦町小阪)	副会長	峯 茂喜 氏
	柱本田園自然環境保全会 (橋本市柱本)	会長	大原一志 氏
コメンテーター	: NPO 法人 棚田ネットワーク	会長	中島峰広 氏
	榎谷棚田保存会 (愛媛県大洲市)	代表	城本誠一 氏



コーディネーターの大浦教授



パネリスト

まず司会者より各パネリストの地域がスライドで紹介されました。各パネリストの地域では、それぞれ特色ある活動が展開され、今までのサミットでは現地見学を受け入れた地域でもありません。伊澤氏の沼の農業をまもる会では学生との交流を通じた保全活動を行っています。峯氏の棚田を守ろう会がある色川地区では、多くの都会人が移住しており、田植えなどのイベントには遠方からも人が訪れます。大原氏の柱本地区は大阪に近く、周辺には住宅地があり、地区住民と都

市住民との協働で活動を行っています。

共通した課題として、人材が不足し継続して維持していく難しさが話題となり、その中で取り組む新たな方法やアイデアが話されました。コメンテーターの中島氏からは、保全活動はボランティアだけでは続かない、取組を事業化していかなければならないと話がありました。

全体を通して、同じような保全活動に取り組む方々が集まり交流していくことが大切だと感じており、コーディネーターの大浦教授からも、活動を広げて将来に向けて互いに話し合う場を持ち、地域の価値や可能性を見出して頑張っていくと話がありました。

#### (4) その他

さらに、会場のロビーには、地域で棚田保全等の活動をしている団体や土地改良事業団体連合会の活動紹介ブースを設けるとともに、地域での活動のヒントとなるよう、中山間地域等直接支払制度ならびに多面的機能支払制度に取り組む組織による活動事例のパネル展示を行いました。



棚田保全団体紹介ブース



中山間地域等直接支払制度の展示

### 3) 交流会



シンポジウム終了後の交流会は海南商工会議所で 76名に参加いただきました。それぞれの地域の取り組みや課題等について、活発に意見交換が行われました。

#### 4) 10月11日(現地見学)

2日目の現地見学会は、わかやまの美しい棚田・段々畑に認定された「下津町方の段々畑」を訪れました(参加者58名)。海南駅よりバスに乗って近くまで行き、参加者は段々畑を一望できる所まで坂道を登りました。見晴の良い所で一息つき、方地区地域資源保全会の森本泰宏氏が地区や取り組みについて話してくれました。江戸時代に積まれた段々畑の石垣は、和歌山城築城に携わった人々によって築かれ、また、すぐ傍には、紀伊国屋文左衛門が江戸へみかんを運んだ船が出ていたそうです。方地区の段々畑には、和歌山みかん栽培の歴史を感じる風土がありました。



段々畑を散策



段々畑を一望



説明する森本氏

次に紀州徳川家を祀る長保寺を訪問し、国宝となる本堂など語り部さんに案内してもらい、海南市の歴史を巡る見学会となりました。



長保寺山門



語り部さんの説明

## 5) おわりに

本県では、平成25年に有田川町で全国サミットが開催されたことで、多くの人に棚田・段々畑の地域資源としての価値や保全活動の重要性を知ってもらう機会となりました。この全国サミットで盛り上がった棚田・段々畑の保全に対する関心を一過性のものにせず、保全活動を持続的な取り組みとするため、「わかやまの棚田・段々畑サミット」を開催してまいりました。

今までのサミットを振り返ると、棚田・段々畑には人々を魅了する美しい景観があり、それを基軸に地域伝統・文化や特産品を活かし、都市住民との交流や移住・定住に繋げている地域を窺い知ることができました。また、昔ながらの農村空間（地域伝統や集落での生活）を大切にし、地域の宝として未来に引き継いでいく必要があると実感しました。

しかしながら、棚田・段々畑をとりまく現状は、高齢化、過疎化による後継者不足により、維持・保全していくことが困難になってきております。これからも棚田や段々畑を保全していくには、多くの方々の理解と協力を得ることが必要です。今回のサミットのパネルディスカッションでは、保全活動を事業化していくことや、各地域の保全する方々が悩みを話し合い交流する必要性が話にありました。

和歌山県棚田等保全連絡協議会では、保全活動に取り組む方々が集い話し合う機会を作り、役立つ情報を収集し、わかやまの棚田や段々畑を未来に引き継ぎ残していけるよう、保全活動を支援してまいります。